

## 1. 研究主題

自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力の育成  
～ 既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk を通して ～

## 2. 研究主題設定の理由

近年、急速なグローバル化により世界中の人々や文化に出会う機会が増えた。交通機関の発達により外国にも行きやすくなり、通信技術の発達やインターネット等の普及により日本に居ながら外国人と通信することも簡単になった。本市でも、昨年の秋にラグビーワールドカップが開催され、世界各国から外国人が来県し、町のいたるところで交流が行われた。今年には東京オリンピック・パラリンピックの開催もあり、多くの外国人と触れ合う機会も増えるであろう。このような国際社会においては、異文化の人々とも積極的にコミュニケーションを取り、相手のことを理解しつつ、自分の考えをうまく伝えることが大切となり、今まで以上に国際共通語としての英語によるコミュニケーション能力の向上が重要となると考える。

このような中、令和 2 年度から小学校において新学習指導要領が全面実施となる。中学年で外国語活動が行われ、「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の 2 技能 3 領域において、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成していく。その上で、高学年においては「読むこと」、「書くこと」を加えた教科として外国語が導入され、4 技能 5 領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成していくことが求められている。

その中で注目するのは、「話すこと」が[やり取り]と[発表]の 2 領域に分けられ、高学年では「簡単な語句で自分の考えや気持ちなどをその場で伝え合う」力まで求められていることである。この「話す力」を育むために外国語科では、Small Talk を行い、既習表現の定着を図ることとしており、私自身やりがいのある興味深い活動であると感じている。

一方で、小学校（大分市立）の指導教諭及び教諭を対象とした小学校外国語活動・外国語に関する調査（【表 1】2019 年 5 月実施）結果を見ると、指導教諭及び教諭が、外国語活動の授業で英語を話すことに対して不安を抱いており、また、高学年における Small Talk や「書くこと」などの新しく加わった活動についても課題と感じていることが分かった。新学習指導要領の全面実施を前に、こうした状況をいかに改善していくかが本市の外国語教育を推進する上での課題であることが伺える。

【表 1】小学校（大分市立）における小学校外国語活動・外国語に関する調査（複数回答可）

「外国語活動についての課題」			「必要としている研修」		
1	自分自身の英語力不足	69%	1	自分自身の英語力向上	70%
2	Small Talk 等の新指導内容・方法	41%	2	指導内容・方法	66%
3	ALT との打合せ	30%	3	評価内容・方法	25%

これまで、自分が実践してきた外国語活動を振り返ると、インタビューゲーム等のコミュニケーション活動において、質問文や答え方を先に教えて練習した後、複数の友達にインタビューさせる活動等が中心であった。子どもたちはたくさんの友達にインタビューを行い、活発に活動しているものの、決められた表現を使った反復練習のような「やり取り」を行っており、新学習指導要領で求められている「やり取り」には至っていなかった。子どもたちは、自らの伝えたいことの有無に関わらず、その活動を行うための言い方を覚えようとしており、授業後もそれらを活用してコミュニケーションを図ろうという意識が働かず、既習表現の定着が不十分であった。そのため、それ以後の単元でその既習表現を使った質問をされても答えられなかったのではないかと推察される。

瀧沢広人 (2018) は、「話すこと[やり取り]」の実現のために、「学習した英語表現の蓄積を意図的に行い、既習事項を繰り返し使用させる授業をしなくてはならない。何度も何度も、基本表現を使わせるような場面やトピックを与え、友達とインタラクション(やり取り)を図ることで、児童は表現を身に付けていく」と述べている。

以上のことから、国際共通語としての英語によるコミュニケーション能力の向上のためには、子どもたちが自分の思いや話したいことを英語で表現できる(「やり取り」できる)力を育成する必要がある。子どもたちの「話す力」を高めるために新学習指導要領において、新たに示された **Small Talk** をより効果的に活用することができれば、こうした課題を改善できるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、外国語科の授業において単元のゴールを見据え、そこで必要となる既習表現を計画的に配置するとともに、子どもたちが「話したい・聞きたい」と思うような話題を意図的に組み合わせた **Small Talk** を行うことで、英語で「やり取り」できる力を育成することができると考え、本研究の主題を設定した。

### 3. 研究仮説

小学校外国語の授業において、既習表現と児童が興味・関心をもって活動できる話題を組み合わせた **Small Talk** を意図的・計画的に行えば、自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力を育てることができるであろう。

#### 4. 全体構想

##### 【研究主題・副題】

自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力の育成  
～既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk を通して～



##### 【研究仮説】

小学校外国語の授業において、既習表現と児童が興味・関心をもって活動できる話題を組み合わせた Small Talk を意図的・計画的に行えば、自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力を育てることができるであろう。



##### 【研究内容】

- 1.自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力を育成するための文献調査・先行研究調査
- 2.自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力を育成する小学校外国語の授業



予備授業・検証授業の分析



研究のまとめ・研究の成果と課題

#### 5. 研究の方法

##### (1)文献調査・先行研究調査

- ①「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」について
- ②「Small Talk」について

##### (2) 本研究で目指す姿

- ①移行期間であることを踏まえた「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」について
- ②既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk について
  - i 計画的な既習表現の配置
  - ii 意図的な話題設定
  - iii 研究の全体構想図
  - iv 検証計画について

##### (3)事前アンケート

##### (4)予備授業

- ①予備授業 1 回目
- ②予備授業 2 回目
- ③検証授業に向けて

##### (5) 検証授業

- ①抽出児の「英語でやり取りできる力」についての分析
- ②6年生全体の事前事後アンケート
- ③6年生全体の話題アンケート
- (6)研究のまとめ・成果と課題

## 6. 研究の内容

### (1)文献調査・先行研究調査

#### ①「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」について

新学習指導要領では、子どもたちに「外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能」を身に付け、「身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力」を養うよう示されている。

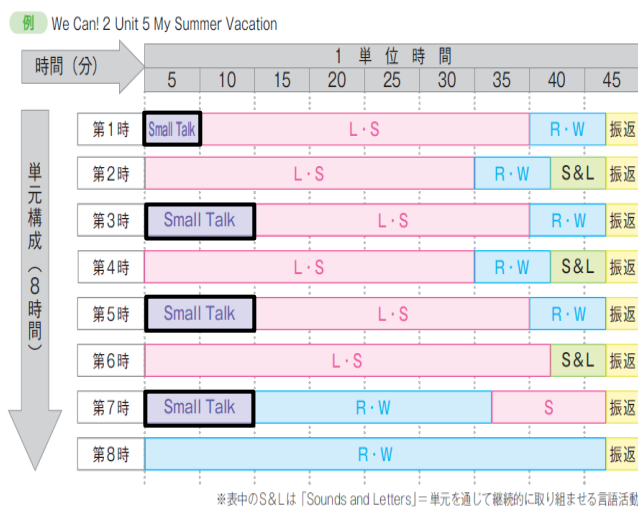
本研究における「自分が伝えたいこと」を、「日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなど」とし、「英語でやり取りできる力」を、「簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる力」として位置付けた。子どもたちが「その場で聞かれたことに対して、簡単な語句や基本的な表現を用いて英語で伝えられる力」を育むことで、「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」が育成されると考える。

#### ②「Small Talk」について

新学習指導要領を踏まえた、『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（文部科学省）によると、Small Talk とは、「外国語の授業（5・6年）において2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマの下、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする言語活動」として定義されており、5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行うこととなっている。

また、「大分市小学校英語教育推進ハンドブック」によると、単元構成として、授業の初めに相手を替えて1～2分程度の対話（Small Talk）を2回程度行うことが示されている。【図1】

今回の改訂から Small Talk を行うことになった理由として、文部科学省は、「既習表現を繰り返し使用できる



【図1】単元構成（8時間）

（『大分市小学校英語教育推進ハンドブック』）

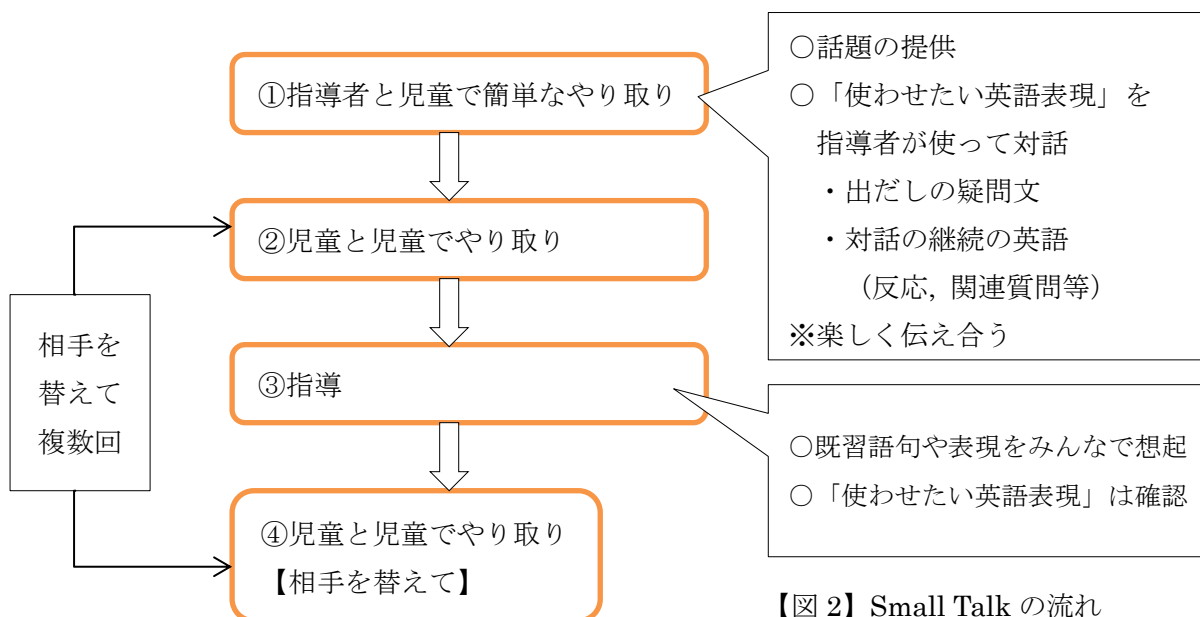
ようにしてその定着を図る」と「対話を続けるための基本的な表現の定着を図る」の2つの意図を挙げている。そのため、小学校高学年で行う「対話を続けるための基本的な表現」【表2】が例として示されている。

【表2】対話を続けるための基本的な表現例

項目	内容	具体的な表現の例
対話の開始	対話の始めの挨拶	A: Hello. How are you? B: I'm good. How are you? など
繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること	A: I went to Tokyo. B: (You went to) Tokyo. など
一言感想	相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること	That's good. / That's nice. / That sounds good. / Really? など
確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと	Pardon? / Once more, please. / More clearly (slowly), please. など
さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るように、内容に関わる質問をすること	A: I like fruits. B: What fruits do you like? など
対話の終了	対話の終わりの挨拶	Nice talking to you. / You, too. など

(『大分市小学校英語教育推進ハンドブック』)

さらに、Small Talk は「①指導者と児童で簡単なやり取り」(デモンストレーション) → 「②児童と児童でやり取り」 → 「③指導」 → 「④児童と児童でやり取り」の流れで行うことについても示されている。【図2】「③指導」では、児童が英語で表現できなかったことについて取り上げ、既習内容で表現できるかを学級全体に問いかけ、既習表現を想起させる。なお、未習の言語材料については、平易なものは指導者が教え、難易度の高いものは日本語を用いることとすると示されている。



【図2】Small Talk の流れ  
(『大分市小学校英語教育推進ハンドブック』)

## (2) 本研究で目指す姿

### ① 移行期間であることを踏まえた「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」について

今年度は、移行期間最後の年度であり、6年生はこれまで、第5学年において年間50時間の外国語活動（Hi, friends!1 35時間＋We Can!1 15時間）を学習し、第6学年においては年間60時間の外国語活動（Hi, friends!2 35時間＋We Can!2 25時間）を学習することになっている。そのため、We Can!の教材の中では学習していない単元が複数ある。この状況を考慮し、6年生の実態に合わせて研究を進めていく。

小学校外国語科の「話すこと[やり取り]」の目標は、前述したとおりであり、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」に示されている Small Talk の代表例を見ると

【表3】のようにペアのやり取りについては、最初の質問の答え「I like watermelon.」を受け、「Me, too.」という「一言感想」に加え

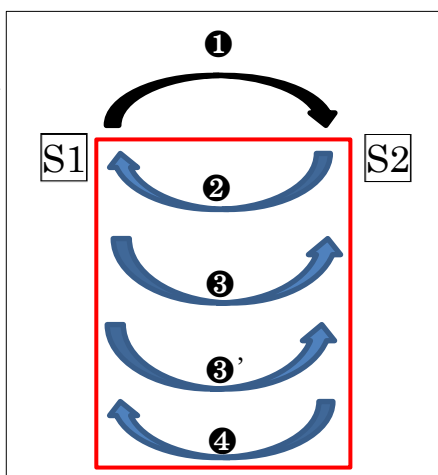
「Why?」等の「さらに質問」をする「2往復のやり取り」が多いことが分かった。

そこで、本研究で目指す「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」は、【図3】中の②③③'④と考える。

②とは、「聞かれたこと(①)に対して自分の考えを伝える」こと、③とは、「S2が答えたこと(②)に対して、自分の考えを伝える(繰り返し・一言感想)」こと、③'とは、「S2が答えたこと(②)に関して『さらに質問』すること、④とは、「そのさらに質問されたこと(③')に対して自分の考えを伝える」ことである。このようなやり取りにより、最初に質問したことに答えるという「1往復の対話」だけではなく、「一言感想」や「さらに質問」などを加えた、「2往復のやり取り」を目指す。

【表3】 Unit 5 My summer vacation の例

S1: What food do you like in summer?
S2: I like watermelon.
S1: Me, too. Why?
S2: It's sweet. How about you?



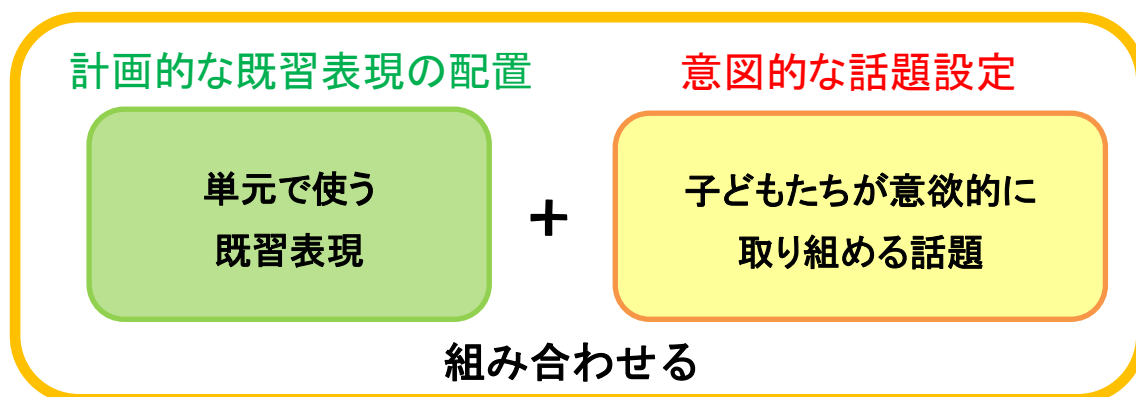
【図3】「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」

### ② 「既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk」について

既習表現を繰り返し使用してその定着を図る Small Talk において大切なことが2つあると考える。1つ目は、単元のゴールで必要とされる既習表現の中から選んだ表現を計画的に配置し、身に付けさせることである。「Small Talk で用いた表現が単元のゴールで必要となること」また、「Small Talk を繰り返すことで、英語で伝える力が高まること」を意識させると、Small Talk への意欲が増すと考えるからである。2つ目は、子どもたちが意欲的に取り組める話題を設定することである。子どもたちが「自分のことを話したい・友達の話を知りたい」と思うような話題を意図的に設定することで、Small Talk への一層の意欲喚起につながるとともに学びの必然性につながると考えるからである。

そこで、この「計画的な既習表現の配置」と「意図的な話題設定」を組み合わせた Small Talk【図 4】を通して、「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」を育成していこうと考えた。

## 既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk



【図 4】本研究における Small Talk

### i 計画的な既習表現の配置

まず、単元のゴールでどのような活動を行うのか、その活動で必要とされる表現は何かを考える。そして、必要とされる表現の中で既習表現はどの程度あるのか、その既習表現の中で使用頻度の高いものはどれかを選び出し、Small Talk で使う既習表現を決めることにした。その後、単元の各単位時間に行う活動を決定し、子どもたちの実態に沿って活動の難易度や時間配分などを考慮して、Small Talk を単元のどの時間に取り入れれば、より効果的かを考え、単元構成を行った。(別紙 1 P.1～P.2 参照)

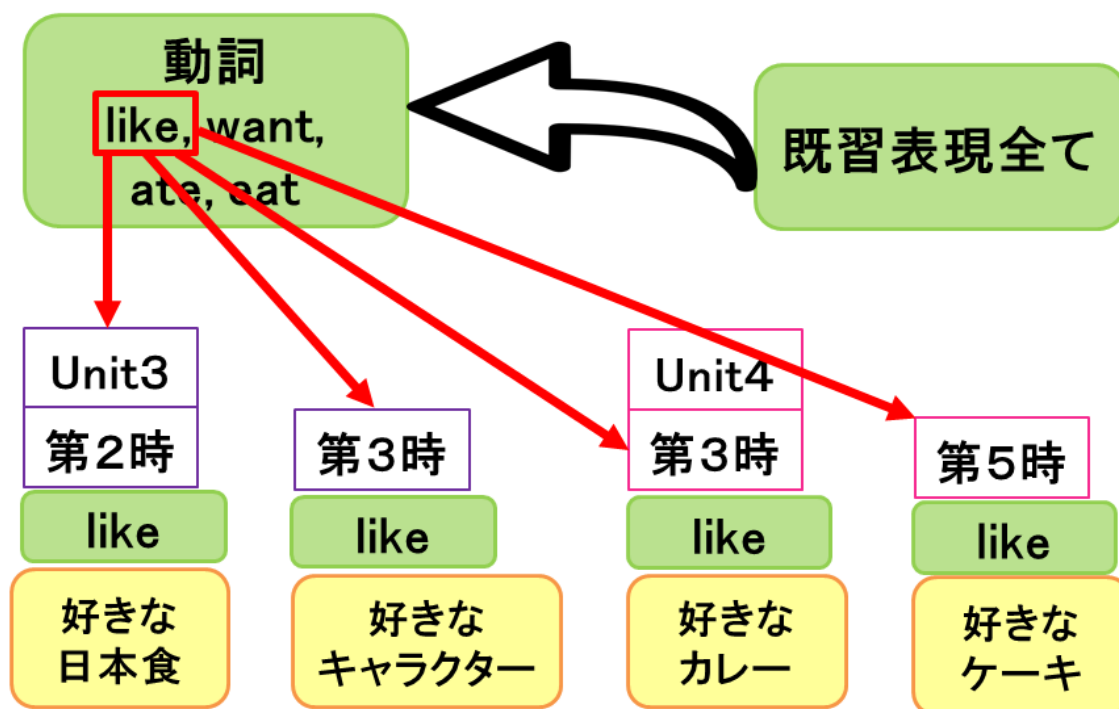
### ii 意図的な話題設定

『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(平成 29 年文部科学省)に「児童が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合えるようにする」と示されているように、子どもたちが「自分のことを話したい・友達の話を知りたい」と思うような話題とは何かを考えることにした。子どもたちが「話したい・聞きたい」と思う話題とは、子どもたちにとって「日常的で、多様な考えがあり、お互い未知な話題」であると考えた。

まず、「単元で使う既習表現」と組み合わせられる「話したい・聞きたい」と思う話題について考えた。これまでの取組や子どもたちの現状を担当の先生と話す中で、動物、食べ物、スポーツ等の名詞については学習を重ねてある程度身に付いているが、「want」「like」「eat」等の動詞は、あまり身に付いていないと分かった。そこで、これらの「動詞」に焦点を当てて段階的に復習する必要があるため、この中から選んだ動詞と意欲的に取り組める話題を組み合わせた文を考えることにした。

【図 5】で、「like」を例にした計画的な既習表現の配置と意図的な話題の組合せ方について紹介する。

## 計画的な既習表現の配置と意図的な話題設定の組合せ



【図 5】「like」における計画的な既習表現の配置と意図的な話題の組合せ

また、これらの Small Talk が活発に行われるためには、子どもたちが自分の考えをもった上で取り組むことが不可欠であることから、指導上の留意点として次の 4 点を設定した。

【表 4】子どもたちが積極的に Small Talk に取り組むための指導上の留意点

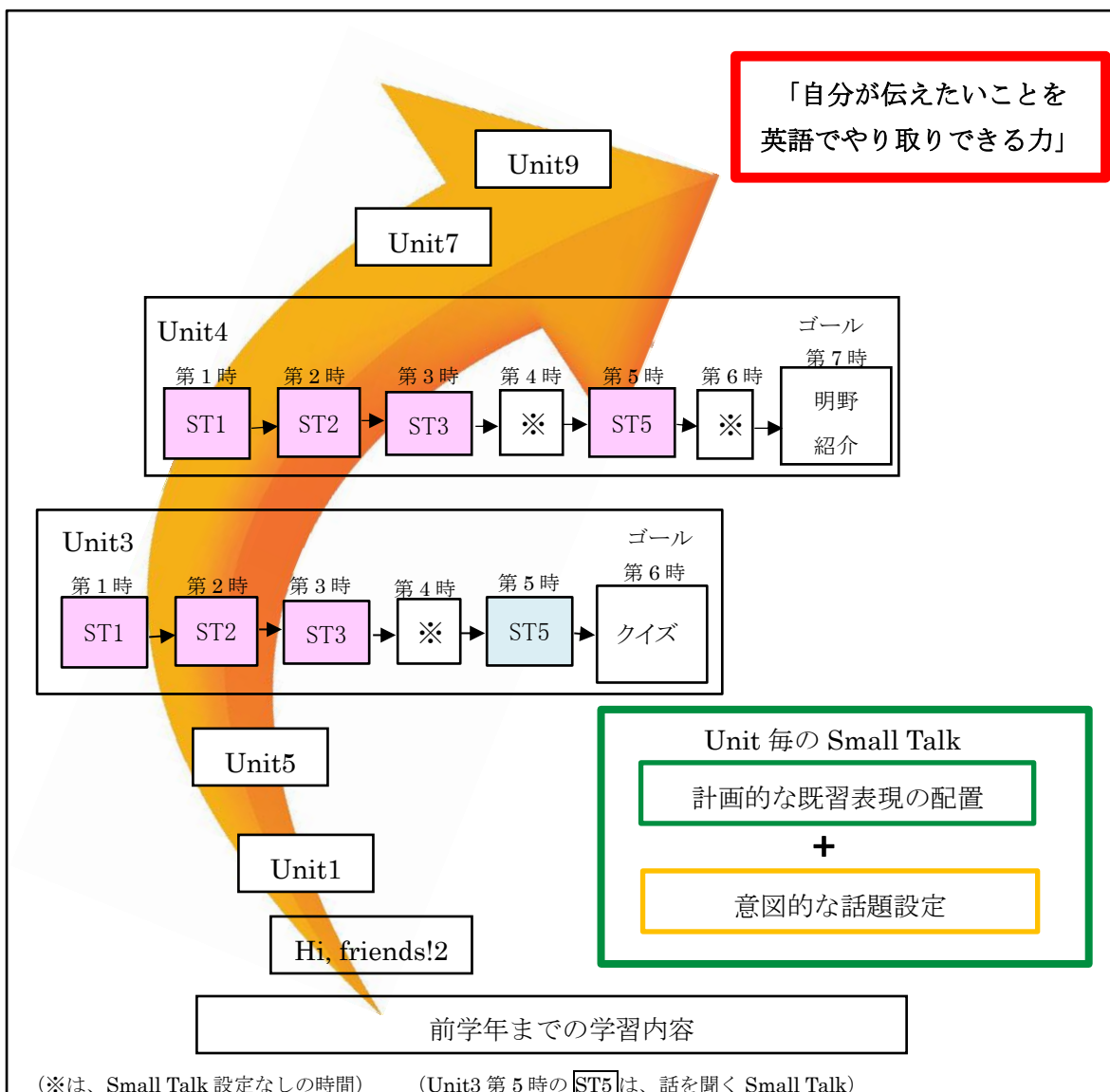
- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>❶ 子どもたちが理解しているか時々質問しながら、話に巻き込む。(話題の理解のため)</li> <li>❷ 例を複数挙げる。(自分の考えをもたせるため)</li> <li>❸ 間を置きながら話す。(自分の考えをもたせるため)</li> <li>❹ 全体指導で既習表現を想起させる。(伝えるための手立てとして)</li> </ul> |
|---|

これらの点に留意した指導を行うことにより、指導者のまとまった英語を聞いても、子どもたちはその話題を理解し自分の考えをもち、自ら既習表現を想起し始め、伝えたいという気持ちが高まってくるなど、より効果的な Small Talk にもつながると考える。



### iii 研究の全体構想図

今年度の第 6 学年の子どもたちは、前年度までの学習内容を基に、1 学期から「Hi, friends! 2」の「Lesson 2,5,6,8」を学習した後、「We Can! 2」の「Unit 1,5,3,4,7,9」の順番で学習を進めている。なお、ペアで自分の考えを伝え合う Small Talk は、「Unit3」から取り組んでいる。



【図 6】研究の全体構想図

### iv 検証計画について

#### a. 検証の視点

小学校 6 年生の外国語科において、子どもたちに自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力を育成するために、既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk (「計画的な既習表現の配置」と「意図的な話題設定」)を行うことは有効であったか。

## b. 検証方法

以下の方法で、子どもの様子や変容を見取る。

- 外国語活動の授業に関するアンケート(6月・12月)
- 撮影した外国語活動の授業の映像(A層・B層・C層から1名ずつ選んだ抽出児3名)  
ALTからの質問に対する抽出児の解答の姿から、「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」が育ったかどうかを見取る。
- 授業の振り返りカード

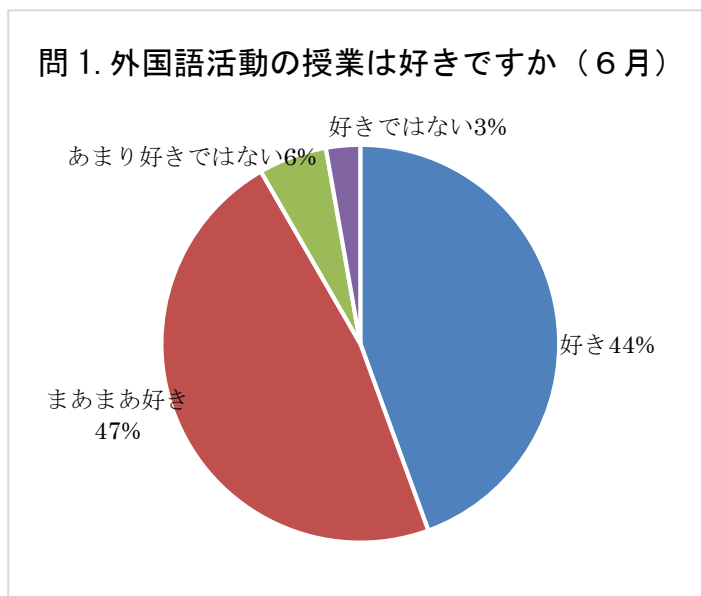
## 7. 研究の実際

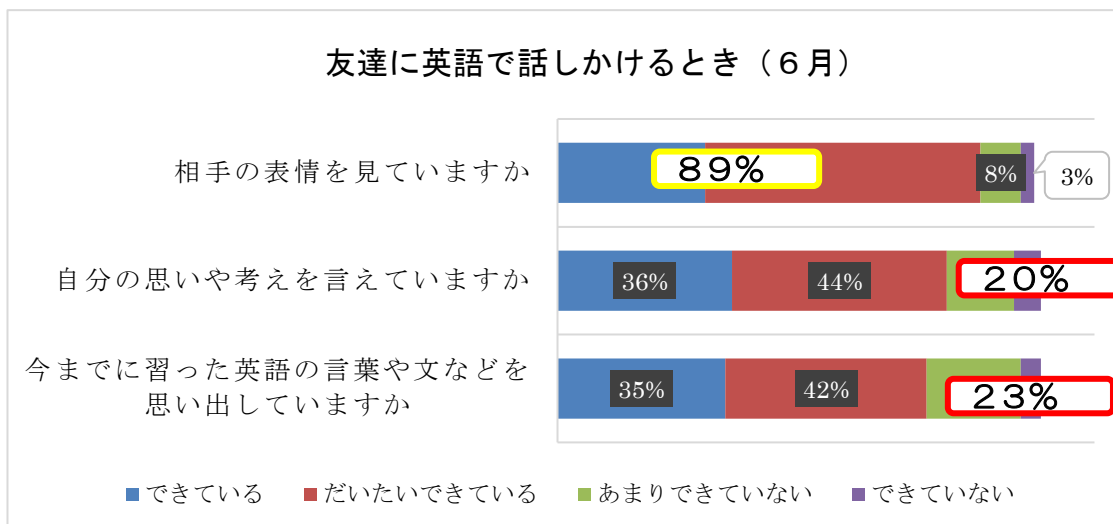
### (1) 事前アンケート

所属校において、第6学年の児童(72名)を対象とした外国語活動についての事前アンケートを実施した。問1.外国語活動の授業は好きですかとの問いに対して「好き」「まあまあ好き」と回答した児童は66名で91%であった。

この結果は、問2.どんなことをしているときが楽しいですかという問いに対して、「ゲームが楽しい」という回答が多いことから、今までの外国語活動において、ゲームを多く取り入れてきたことが外国語活動の授業が好きな理由の1つであると考えた。We Can! (外国語科の教材)では、キーワードゲーム等の回数が減り、思考する活動(Let's Talkでのペア活動等)が増え、学習内容が難しくなっていくため、この楽しい雰囲気を継承しつつ、自分が伝えたいことを表現できるように思考させていかなければならないと考えた。

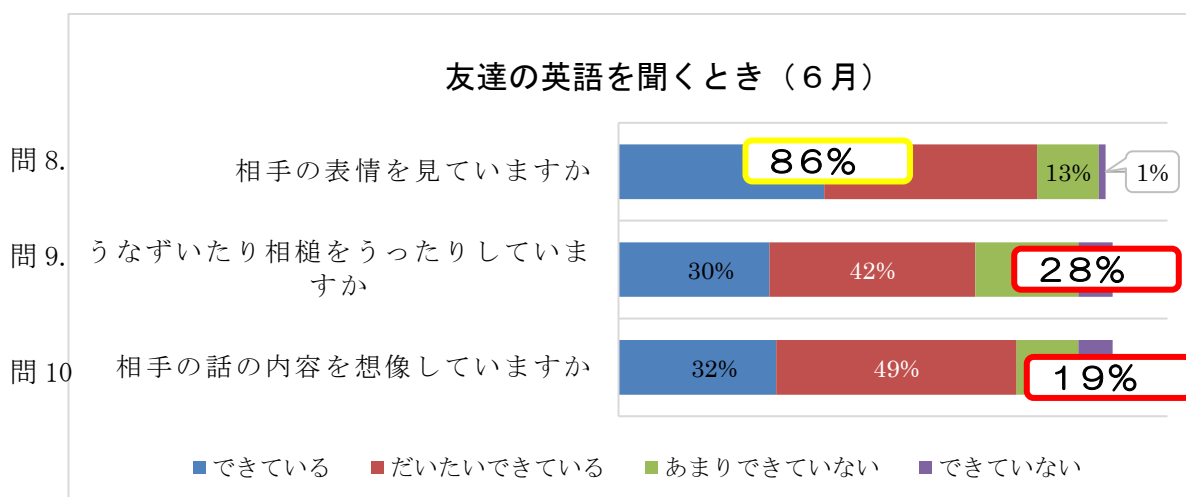
また、問3.で楽しい理由を聞いたところ、「みんなと話せてよい・友達のことを知れてよい」という理由でインタビューゲームが好きな児童は15名であった。インタビューゲームの楽しさを知っている児童がいることから、友達の新たな面が発見できるようなインタビューゲームをしていけば、「話したい・聞きたい」と思う児童が増えていくと思われる。





問 4.友達に英語で話しかけるときの、相手の表情を見ていますかという問いに対して、「できている・だいたいできている」と回答する児童は 63 名で 89%と多かった。これは、外国語活動の授業で「4 つのめあて」のスマイルやアイコンタクトを意識付けてきたからであると思われる。

反対に、問 5.話すとき、自分の思いや考えを言えていますかという問いに対して、「あまりできていない・できていない」と回答する児童は 14 名で 20%と多かった。また、問 6.話すとき今までに習った英語の言葉や文などを思い出していますかという問いに対しても、「あまりできていない・できていない」と回答する児童は 17 名で 23%と多かった。これは、これまでの授業において、既習表現を思い出させることや、自分の思いや考えを伝える活動を十分に確保していなかったためと思われる。今後は「自分の思いや考えをもち、既習表現を使って伝えようとする姿」を目指し、取り組んでいくことが必要であることを痛感した。



問 8.友達の英語を聞くとき、相手の表情を見ていますかという問いに対して、「できている・だいたいできている」と回答する児童は、61 名で 86%と多かった。これは、話すときと同様、「4 つのめあて」のスマイルやアイコンタクトを意識付けてきたからであると思われる。問 9.聞くとき、うなずいたり相槌を打ったりしていますかという問いに対して、「あまりできていな

い・できていない」と回答する児童は 20 名で 28%と多かった。これまで、レスポンス（反応）を十分意識させることができなかつたためだと思われる。今後は、Small Talk を通して、うなづく・繰り返す・一言感想・質問などの「対話を続けるための基本的な表現」を教え、繰り返し使用するよう意識付けしていけば、聞くときにうなずいたり相槌を打ったりできるようになると考える。問 10.相手の話の内容を想像していますかという問いに対して、「あまりできていない・できていない」と回答する児童は 14 名で 19%と多かった。これも問 9 と同様に、レスポンスの意識が低いため、相手の返事を予測せず漫然と聞いていたためだと思われる。

アンケート結果より、自分の考えを英語で伝えたり、レスポンスを行ったりする児童は少ないと分かる。さらに、実際の授業で児童の「英語でやり取りできる力」を把握するために、予備授業を行った。

## (2)予備授業

第 6 学年 1 組・2 組に、6 月 25 日（火）と 7 月 4 日（木）の 2 日間で予備授業を実施し、子どもたちの「英語でやり取りできる力」を把握するため、インタビューゲームを行った。

### ① 予備授業 1 回目

6 月 25 日（火）は、Hi, friends! 2 の「Lesson 8 What do you want to be?『夢宣言』をしよう」の第 1 時において、単元のゴールである「夢宣言」につながるように、「夢宣言」する際に用いる“I can ～.”の表現を取り入れ、“What can you do?”“I can ～.”というインタビューゲームを行った。

実際に授業を行い、6 年生の「伝えたいことを英語でやり取りできる力」について、次のような 2 つの課題が見られた。1 つ目は、「can」を使った Teacher’s Talk を行い、既習表現の「can」を思い出させようとした。しかし、“What ～?” や“Can you～?”を既習表現として想起させられず、インタビューゲームでの“What can you do?”につなげることができない児童が多く、“What ～?”や“Can you～?”は、既習表現として身に付いていないことである。

2 つ目は、ペアでやり取りする際、英語で尋ねたいがどのように言えばよいか分からず、話す際に黒板を見て確認してから言う子どもが多かったことである。

これらの理由としては、これまでの外国語活動では、指導者から教えられた表現で話せばよいと受動的な思考になっているということ、そのため、これまで学んだ表現を活用しながら自分で話し方を考えるという能動的な思考になっていなかったからと思われる。

これらの課題を改善し、活動に積極的に取り組ませるためには、子どもたちが話題を理解し、自分の考えをもち、自分の言葉で話したいと能動的な思考につなげることが重要であると改めて思った。

### ② 予備授業 2 回目

7 月 4 日（木）は、We Can! 2 の Unit 3 This is ME!「自己紹介」の第 2 時において、インタビューゲームを行った。6 月の「夢宣言」や 7 月の「自己紹介」で「like」を使って好きな教科・スポーツ・動物や、「can」を使って自分のできることを伝え合う活動を行った。今

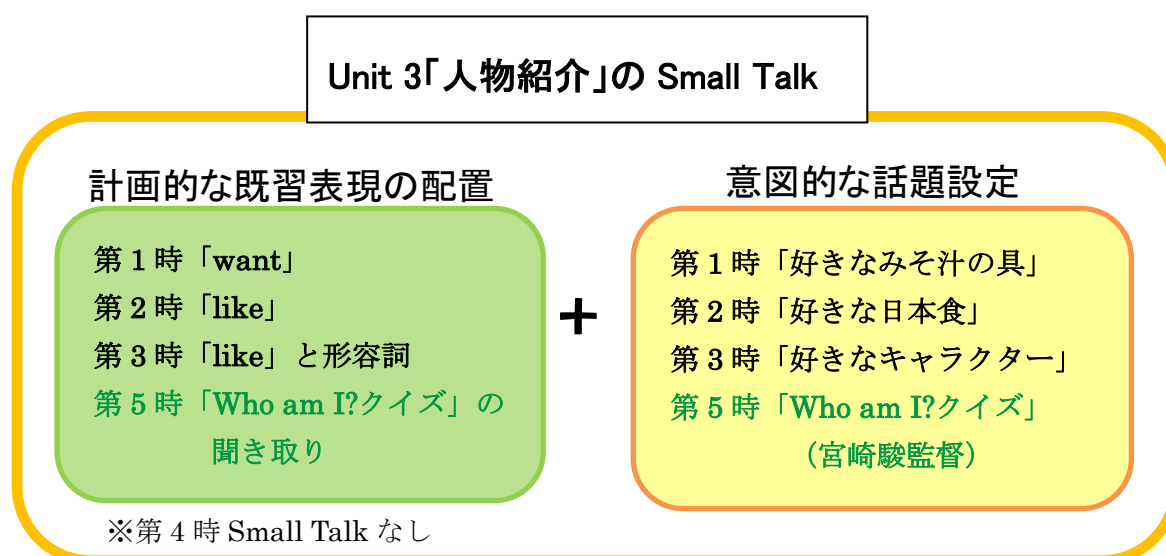
回のインタビューゲームは単元のゴール「自己紹介」の選択肢を広げるためと子どもたちの興味・関心を把握するための質問として、“What animation do you like?” “I like ~.”を行った。

ワークシートの英文を見ながら尋ねる子どもが多いという授業の様子から、自分で既習表現を使ってやり取りができていたわけではなく、まだ課題は大きいと感じた。しかし、今回は子どもたちの好きなアニメが話題であったため、聞きたいという気持ちが前回より高まっているように感じた。また、これまで何度か学習している“Do you like ~?”を用いた活動であったことから、積極的にインタビューができていた子どももいた。今回の授業では、興味・関心のある話題設定が友達の話を知りたいという気持ちにつながるということが分かった。

この2回の予備授業を通して、興味・関心のある話題設定と、既習表現を確実に獲得させ、慣れ親しませることの重要性を感じるとともに、活動に積極的に取り組ませるためには、子どもたちが自分の考えをもち、自分の言葉で話したいと思うための「指導上の留意点(4点)」を踏まえた指導が不可欠であると感じた。

### ③ 検証授業に向けて

予備授業から見てきた課題を基に、Unit3 と Unit4 の検証授業を行う。Unit 3 He is famous. She is great. 「人物紹介」の Small Talk における「既習表現」と「話題」の組合せは、【図7】の通りである。



【図7】Unit3「人物紹介」の Small Talk

なお、Unit3 の第5時は、単元のゴールの活動(第6時)「Who am I?クイズ」を作成するための例として、指導者のまとまった話を聞く Small Talk としている。

そして、Unit4 I like my town. 「自分たちの町・地域」の Small Talk における「既習表現」と「話題」の組合せは、【図8】の通りである。

## Unit 4 の Small Talk

### 計画的な既習表現の配置

第1時 「ate」  
 第2時 「want to eat」  
 第3時 「like」  
 第5時 「like」

+

### 意図的な話題設定

第1時 「朝食に何を食べたか」  
 第2時 「夕食に何を食べたいか」  
 第3時 「好きなカレー」  
 第5時 「好きなケーキ」

※第4時 Small Talk なし

### 指導上の留意点

- ①子どもが理解しているか時々質問しながら、話に巻き込む
- ②例を複数挙げる
- ③間を置きながら話す
- ④既習表現を想起させる

【図8】Unit4「自分たちの町・地域」の Small Talk

Unit3 の Small Talk の一覧表と Unit4 の Small Talk の一覧表を【図9】【図10】に示す。

#### ≪ Unit3 He is famous. She is great. 「人物紹介」のコミュニケーション活動 ≫

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
活動	Small Talk①	Small Talk②	Small Talk③	Activity 「クイズ作り」の導入	Small Talk④	Activity 「Who is this?クイズ」
既習表現	5年 Hi, friends! 1 Lesson 6 What do you want? What do you want?	5年 Hi, friends! 1 Lesson 4 I like apples. Do you like apples? Lesson5 What do you like? What color do you like?	5年 We Can! 1 Unit 9 Who is your hero? (He/She) is (kind/great/cool)	5年 We Can! 1 Unit 5 She can run fast. He can jump high.	5年 We Can! 1 Unit 3 What do you have on Monday? I study (math).	これまでの既習表現全て
話題	「好きなみそ汁の具」 S1: What do you want in the miso soup? S2: I want pumpkin. S1: You want pumpkin.	「好きな日本食」 S1: What Japanese food do you like? S2: I like Sushi. S1: Sushi. Why? S2: I like salmon.	「好きなキャラクター」 S1: What character do you like? S2: I like Doraemon. S1: Me, too. Why? S2: He is great.	T: I like sports. My uniform's color are red and white. My uniform's emblem is cherry blossoms. (桜のエンブレム) I like rugby. I can tackle very well. I am the captain of my team. Who am I?	T: I like movies. I study arts and crafts. I make animations. Some animations I made was "Tonari no Totoro", "Majo no takkyubin", and "Hauru no ugoku shiro". Who am I? (ALT より)	G1: I like music. I want a dog. I have a cap. I eat omu rice. I play table tennis. Who am I? (子どもの問題より)
目指す姿	動詞「want」を使い、好きなみそ汁の具を言う。	動詞「like」を使い、好きな日本食とその理由を言う。	動詞「like」を使い、好きなキャラクターとその理由を言う。	「Who am I?」クイズの概要を聞き取り、答えを考える。	「Who am I?」クイズの概要を聞き取り、答えを考える。	「Who am I?」クイズの概要を聞き取り、答えを考え、答える。
設定理由	・単元のゴールである「Who is this?」クイズでは、様々な既習の動詞が使われる。第1時では、使用頻度の高い「want」を復習する。質問者は、ペアの答えを繰り返して確かめ、「1.5往復の対話」を行う。聞き取れなかったときは、「Pardon?」と聞き返す。 ・動詞を「want」に限定することで、答えに集中できる。 ・みそ汁は身近な話題であり、好みも様々である。	・単元のゴールである「Who is this?」クイズで使える動詞「like」を復習する。「like」は何度か学習しており、少し慣れていていると思われるため、第2時から、理由を尋ねる「質問」を入れ、「2 往復の対話」を行う。その際、前時で行った「繰り返し」も入れる。 ・動詞を「like」に限定することで、日本食と理由に集中できる。 ・日本食は身近な話題であり、料理の種類が豊富である。	・単元のゴールである「Who is this?」クイズで使える好きな理由(形容詞)の復習をする。理由を尋ねる「質問」を入れ、「2 往復の対話」を行う。その際、答えに対する「一言感想」(Me, too. That's nice. Really?のうちのどれか一つ)を入れる。 ・動詞を「like」に限定することで、キャラクターと理由に集中できる。 ・キャラクターは身近な話題であり、テレビやゲーム、商品など種類が豊富である。	・「Who am I?」クイズを作る活動の導入において、クイズ作りのモデル文として参考にする。 ・Teacher's Talk を聞き取ったり、質問に答えたりしながら、クイズの答えを考える。 ・指導者がまとまった話をするので、他の既習表現を思い出すことができる。	・「Who am I?」クイズを完成させるため、クイズ作りのモデル文として参考にする。 ・Teacher's Talk を聞き取ったり、質問に答えたりしながら、クイズの答えを考える。 ・指導者がまとまった話をするので、他の既習表現を思い出すことができる。	・グループで行う「Who am I?」クイズにおいて、クイズを出したり、聞き取って答えたりする中で、これまでに学習した既習表現を使いながらやり取りを行う。

【図9】Unit3 Small Talk の一覧表 (別紙1 P.1)

≪ Unit4 I like my town. 「自分たちの町・地域」のコミュニケーション活動 ≫

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時
活動	Small Talk①	Small Talk②	Small Talk③	Activity 「明野紹介」ミニポスター作り	Small Talk④	Activity 「明野紹介」リハーサル	Activity 「明野紹介」
既習表現	6年 We Can! 2 Unit 5 My Summer Vacation I ate ice cream.	6年 Hi, friends! 2 Lesson 6 What time do you get up? I eat dinner. Lesson 8 What do you want to be? I want to be a teacher.	5年 Hi, friends! 1 Lesson 5 What do you like? What color do you like?	6年 We Can! 2 Unit 4 I like my town. We (have/don't have) (a park). I want a (library/park). (Sakura) is nice.	5年 Hi, friends! 1 Lesson 5 What do you like? What color do you like?	これまでの既習表現全て	これまでの既習表現全て
話題	「朝食に〇〇を食べたよ」 (T: What did you eat for breakfast?) S1: I ate rice and miso soup. S2: You ate rice and miso soup. Do you like miso soup? S1: Yes, I do.	「夕食に何食べたい？」 S1: What do you want to eat for dinner? S2: I want to eat Yakimiku. S1: Nice. What meat do you like? S2: I like beef.	「好きなカレー」 S1: What curry do you like? S2: I like seafood curry. S1: Me, too. What seafood do you like? S2: I like shrimp.	S1: This is my town. _____ is (nice/great). S2: We have _____. S3: We don't have _____. S4: I like _____. I want a _____.	「好きなケーキ」 S1: What cake do you like? S2: I like short cake. S1: Really? Why? S2: I like strawberry.	S1: This is my town. _____ is (nice/great). S2: We have _____. S3: We don't have _____. S4: I like _____. I want a _____.	S1: This is my town. _____ is (nice/great). S2: We have _____. S3: We don't have _____. S4: I like _____. I want a _____.
目指す姿	・動詞「ate」を使い、「朝食に何を食べたか」伝える。 ・「繰り返し・質問」を入れた2往復の対話をする。	・「want to eat」を使い、「夕食に何を食べたいか」伝える。 ・「一言感想・質問」を入れた2往復の対話をする。	・動詞「like」を使い、好きなカレーについて伝える。 ・「一言感想・質問」を入れた2往復の対話をする。	・自分の考えや気持ち伝える文を考える。 ・自分が発表する文を書き写し、ミニポスターを作る。	・動詞「like」を使い、好きなケーキについて伝える。 ・「一言感想・質問」を入れた2往復の対話をする。	・明野のよさなどについて、自分の考えや気持ちを伝える ・自分のおすすめポイントを考える。	・明野のよさなどについて、自分の考えや気持ちを伝える ・Denisa先生からの「質問」に答える。
設定理由	・第1時では、2学期初めに学習した動詞の過去形「ate」を復習する。(3学期 Unit7で動詞の過去形の学習。) ・動詞を「ate」に限定することで、答えに集中できる。 ・「食べ物」について考えると子どもたちは自然と笑顔になり、自分のことを伝えたい気持ちが高まる。 ・今日の朝食を話題にすることで、各家庭のスタイルや好みにより様々な料理が出てくることを期待できる。 ※「Did you ~?」はまだ学習していないため、挨拶の後「I ate ~」から対話を始める。	・単元のゴール「明野紹介」で使う動詞「want」を復習する。今回は「want to eat」に慣れさせる。(3学期 Unit9で「want to 不定詞」の学習) ・第2時から、答えに対する「一言感想」(Me, too. That's nice. Really?のうらどれか一つ)を入れる。その際、これまで行っている「質問」もする。 ・「食べたい夕食」は好きなメニューであるため、伝えたい気持ちが高まると思われる。	・単元のゴール「明野紹介」で使う動詞「like」を復習する。(第3時 Let's Play3で「like ~ing」のポイントインテグレーションがあるため。) ・動詞を「like」に限定することで、答えに集中できる。 ・カレーは種類が豊富であり、具材や辛さについてだけでなく、カレーパンやスープカレーなどに話を広げることができる。	・単元のゴール「明野紹介」で見せるミニポスターに書く文を作る。 ・グループで話し合い、町のよさなどが伝わる文を考える。 ・Unit4 第1時~第3時で学習した既習表現を思い出しながら、文を作る。	・単元のゴール「明野紹介」で使う動詞「like」を復習する。 ・動詞を「like」に限定することで、答えに集中できる。 ・12月になり、クリスマスが近づいたことからクリスマスケーキの話をした後尋ねると楽しい雰囲気になると思われる。 ・ケーキは種類が豊富であり、フルーツやチョココレート、ナッツなどの具材についての「さらに質問」がしやすいと思われる。	・グループで行う「明野紹介」リハーサルにおいて、明野のよさなどについて、自分の考えや気持ちを伝える。 ・Denisa先生から「質問」されたとき、選んだ場所について、どんなところかおすすめポイントで、英語でどう伝えられるのかを、これまでに学習した既習表現を思い出しながら考える。	・グループで行う「明野紹介」において、町のよさなどについて、自分の考えや気持ちを伝える。 ・Denisa先生からの「質問」を聞き取り、自分の好きなことや選んだ場所のおすすめポイントを伝える。

【図10】Unit4 Small Talk の一覧表 (別紙1 P.2)

そして、Unit3 第1時の Small Talk 「好きなみそ汁の具は何？」の細案を【表4】の指導上の留意点を踏まえ、次のように作成した。

《 Unit 3 He is famous. She is great. 「人物紹介」の Small Talk①の細案 》

みそ汁を取り上げた理由は、子どもたちにとって日常的な食べ物であること、使用するみそや具も家庭によって様々であり、そして何より、日本の食文化の1つを担うものであることから、多様な考えのやり取りが期待できると考えたためである。そして、好きなみそ汁の具を話す機会は少なく、互いに未知のものだと思われる。こうした話題は、子どもたちの伝えたい・知りたいという学習への意欲喚起につながり、Small Talk が活潑に行われると考える。

「好きなみそ汁の具は何？」

(①指導者と児童で簡単なやり取り) (①②③)

T: I'll talk to you about my breakfast. (絵を描く。最後にみそ汁の絵を描く。)

I like miso soup. Today's miso soup was tofu, seaweed and green onion. (絵)

I like tofu, seaweed and green onion, but my favorite miso soup is nameko.

I want nameko in the miso soup.

What do you want in the miso soup?

(②児童と児童でやり取り)

S1: What do you want in the miso soup?

S2: I want pumpkin.

S1: You want pumpkin. That's nice. Why?

S2: It's sweet. How about you? What do you want in the miso soup?

S1: I want abura-age.

S2: You want abura-age. That's nice.

(③指導) (④)

T: 何か困ったことや言えなかったことはありましたか。

S1: 「油揚げ」が英語で言えませんでした。「油揚げ」は英語で何と言いますか。

T: 「油揚げ」はなんて言うのかな。誰か知ってる？

S: Tofu? Fried tofu?

T: そうだね。油で揚げてるから deep-fried tofu って言ったら伝わると思うよ。

油揚げを知らない人には、deep-fried tofu と説明できるね。

では、縦ペアで伝え合いましょう。What do you want in the miso soup?

(④児童と児童でやり取り [相手を替えて])

S1: What do you want in the miso soup?

S3: I want potatoes. ....

※2回目は列の前後の人と行う。話すときは1回目より言いたいことがより伝わるように言葉やジェスチャーなどを多く入れて、聞くときは、「繰り返し」や「一言感想」、「さらに質問」などを1つでも多く加えて少しでも長くやり取りが続くように行う。

このような流れを想定し、実際は子どもの反応や実態に合わせて進めていこうと考えた。



(3) 検証授業

題材 Unit 4 I like my town. 「自分たちの町・地域」 7/7時 12月17日(火)  
ねらい 他者に配慮しながら、自分たちが住む地域について自分の考えを話す。

展開

分	児童の活動	JTE の活動と使用英語例	ALT Denisa	◎評価・準備物 ※検証の視点
2	1.Greetings	○全体に挨拶をして、本時のめあてと流れを確認	○Please greet the class.	・MENU (本時の流れ)
<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">デニサ先生に明野を紹介しよう</div>				
5	2. グループリハーサル ○「明野紹介」の流れについて説明を聞く。 ○グループでリハーサルをする。	○「明野紹介」のやり方の説明をする。 ○グループで最後の練習をさせる。		・ビデオの設置
30	3. 「明野紹介」 ○グループごとにミニポスターを見せながら、Denisa 先生に「明野紹介」をする。 ○発表後、Denisa 先生からの質問に答える。 ○Denisa 先生から、どんな質問をされているのか考えながら、他の班の発表を聞く。	○グループごとにミニポスターを見せながら、Denisa 先生への「明野紹介」をさせる。	○Listen about Akeno introductions.  ○Ask a question to each student. ex.)what do you like from the department store? Do you like ~? What sea animal do you like?	◎他者に配慮しながら、自分たちが住む地域について自分の意見を発表している。 ※Denisa 先生からの「質問」の意味が分かり、答えている。
8	4. Reflection time ○振り返りを書く。 ○アンケートを書く。	○振り返りカードに記入させ、発表させる。 ・本時のめあてや「明野紹介」を振り返らせる。	○Please praise the class and give some comments.	・振り返りカード(※) ・アンケート

① 抽出児の「英語でやり取りできる力」についての分析

検証に当たり、抽出児を3名選ぶことにした。外国語活動の理解もよく、授業に積極的に参加できるA層からA児、外国語活動において理解はしているが話すことや表現することに積極的になれないB層からM児、理解が遅めで外国語活動の学習において不安を抱いているC層からT児を抽出児とした。

## i A 児の「英語でやり取りできる力」について

A 層 A 児の「英語でやり取りできる力」についての考察（別紙 1 P.3～P.4 参照）

### 《Unit3 の A 児の姿》

- Small Talk の話題に興味をもち、既習表現を使ってペアと英語で話そうとしていた。10/17（木）は、「What Japanese food do you like?」とペアから聞かれたとき、「I like すき焼き.」と答え、続けて「It's yummy.」と自分が知っている英語を使って対話を続けようとしていた。（別紙 1 p.3 10/17（木）「実際の『やり取り』の様子より」）
- 「繰り返し」や「さらに質問」という「対話を続けるための基本的な表現」を学び、毎回意識して取り組んだことで、うまくできたと感じていた。10/17（木）は、「くりかえしやさらにしつもんなどうまくできた」と Small Talk のことを振り返っていた。（別紙 1 p.3 10/17（木）と 10/18（金）「振り返りカードより」）
- まだ、既習表現が身に付いておらず、英語に自信がもてないため、1 文ずつ黒板で文を確認してからペアに話すため、ペアの顔や表情を見ながら「やり取り」することができない。10/10（木）は、黒板を見て「What do you want in the miso soup?」の言葉を確認してからペアに質問し、自分が答えるときも、黒板で答え方を確かめてから「I want 厚揚げ.」と伝えていた。

### 《Unit4 の A 児の姿》

- 既習表現が身に付き、何も見ずに質問できるようになり、ペアの表情を見ながら話すようになった。11/21（木）は、2 回目の前席の人との Small Talk において、初めて「What do you want to eat?」と黒板を見ずにペアを見ながら質問することができた。（別紙 1 p.4 11/21（木）11/22（金）12/3（火）「実際の『やり取り』の様子より」）
- ペアに答え方を教えるようになった。12/3（火）は、ペアが英語の言い方が分からず日本語で「いちごが好きだから」と理由を答えると、「I like strawberry.だよ」と優しく教えていた。（別紙 1 p.4 12/3（火）「実際の『やり取り』の様子より」）
- 自分が伝えた内容を英語で書くようになった。11/21（木）は、「たべものをしっかりいえた。I want a tempura. であげた。」と振り返っていた。（別紙 1 p.4 11/21（木）「振り返りカードより」）
- 「Do you like～?」「What ～do you like?」「Why?」という 3 種類の「さらに質問」の言い方を既習表現として学んでいたが、ペアにどんな質問をすればいいかをあまり考えないまま、「Why?」と質問することが多かった。  
（別紙 1 p.4 11/22（金）と 12/3（火）「実際の『やり取り』の様子より」）
- 第 7 時の「明野紹介」では、ALT からの質問「What amusement park rides do you like?」（遊園地のどんな乗り物が好きですか）に「I like roller coaster.」（ジェットコースターが好きです）とすぐに答えることができた。

《Unit3・Unit4 を通しての A 児への考察》

もともと英語に対する抵抗感があまりなく理解も早いため、初めは難なく外国語活動を行っているように見えた。しかし、既習表現の定着という面では自信がまだもてなかったため、1 文ずつ英語を確認しながら活動をしていたと考えられる。しかし、「like」や「want」等を計画的に配置した Small Talk を重ねたことで、既習表現が定着し、自信をもって話すことができるようになったと思われる。

ii M 児の「英語でやり取りできる力」について

B 層 M 児の「英語でやり取りできる力」についての考察（別紙 1 P.5～P.6 参照）

《Unit3 の M 児の姿》

○最初は答え方が分からず、「ワカメ」と答えたが、ペアの答え「I want とろろ and ワカメ.」を聞き、「I want ワカメ and 豆腐.」と好きなものを追加して伝えることができた。ペアから言い方を学ぼうとする姿が見られた。

（別紙 1 p.5 10/10（木）「実際の『やり取り』の様子より」）

○「対話を続けるための基本的な表現の「繰り返し」や「一言感想」を意識して取り組んでいたため、「繰り返し」や「一言感想」が言えるようになった。10/18（金）は、ペアに「What character do you like?」と尋ね、「I like Snoopy.」と答えが返ってくると、「Snoopy.」と繰り返し、「It's cute.」と一言感想も言えた。

（別紙 1 p.5 10/18（金）「実際の『やり取り』の様子より」）

●覚えている既習表現が少ないため、「対話を続けるための基本的な表現」の「さらに質問」が難しく、まだ言えない。10/17（木）は「くり返しをすることができた」10/18（金）は「相づちを打って聞くことができた」と振り返っていたが、「さらに質問」はできていないため、書いていない。

（別紙 1 p.5 10/17（木）と 10/18（金）「振り返りカードより」）

#### 《Unit4 の M 児の姿》

- 既習表現が少しずつ身に付き、文で答えられるようになった。11/21 (木) は、「What do you want to eat for dinner?」の質問に、「I want to eat spaghetti.」と答えた。(別紙 1 p.6 11/21 (木) と 11/22 (金)「実際の『やり取り』の様子より」)
- ペアに答え方を教える姿が見られた。11/21 (木) は、ペアが答え方に困っていると「I like」と答え方をさりげなく教えていた。(別紙 1 p.6 11/21 (木)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 自分で「一言感想」や「さらに質問」を考えて積極的に会話を続ける姿が見られた。11/22 (金) は、「What curry do you like?」と質問し、「I like keema curry.」という答えに「Keema curry.」と笑顔で繰り返し、「さらに質問」を自分で考えて、ペアに「Do you like chicken curry?」と尋ねていた。(別紙 1 p.6 11/22 (金)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 自分が伝えた内容を「『I like』も言えた」「『Me, too.』って言えたので良かった」等英語で表記するようになった。  
(別紙 1 p.6 11/21 (木) と 11/22 (金) と 12/3 (火)「振り返りカードより」)
- 最初の質問は、まだ黒板で文を確認してからペアに話すことがある。11/21 (木) は、答えの「I want to eat～」は言えたが、黒板で確認しても最初の質問の「What do you want to eat?」の「to eat」が言えなかった。  
(別紙 1 p.6 11/21 (木)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 第 7 時の「明野紹介」では、ALT からの質問「What shop do you like?」(どんなお店が好きですか)に「I like park place.」(パークプレイスのお店が好きです)と自分で考えて答えることができた。

#### 《Unit3・Unit4 を通しての M 児への考察》

最初は英語の言い方がよく分からなかったため、なかなか話せなかったが、「自分の好きなものを伝えたい・友達の好きなものを知りたい」という気持ちが高まり、積極的に話せるようになったと思われる。「like」や「want」を計画的に配置した Small Talk を繰り返し行ったため、「英語で伝え合えた」という達成感を味わいながら「やり取り」に慣れ、「like」や「want」の既習表現が身に付いたと考えられる。また、「対話を続けるための基本的な表現」の「一言感想」や「さらに質問」が言えるようになったことで、対話を続けられるという自信をもち始めたように思われる。

### iii T 児の「英語でやり取りできる力」について

C 層 T 児の「英語でやり取りできる力」についての考察 (別紙 1 P.7~P.8 参照)

#### 《Unit3 の T 児の姿》

- 「対話を続けるための基本的な表現」の「繰り返し」をしようとしていた。  
10/10 (木) は、ペアの「油揚げ」という答えを聞いた後、日本語ではあったが「油揚げね」と繰り返した。(別紙 1 p.7 10/10 (木)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 英語の言い方が分からず日本語で答えていた。10/10 (木) は、「好きなみそ汁の具は大根」と答えたかったが、言い方が分からず、「大根」と日本語で答えた。  
(別紙 1 p.7 10/10 (木)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 始めの質問文を言おうと挑戦する姿は見られた。  
10/17 (木) は、「What Japanese food do you like?」で、「What do you like...?」とペアに英語で言いかけたが、それ以上英語は言えなかった。  
(別紙 1 p.7 10/17 (木)「実際の『やり取り』の様子より」)

#### 《Unit4 の T 児の姿》

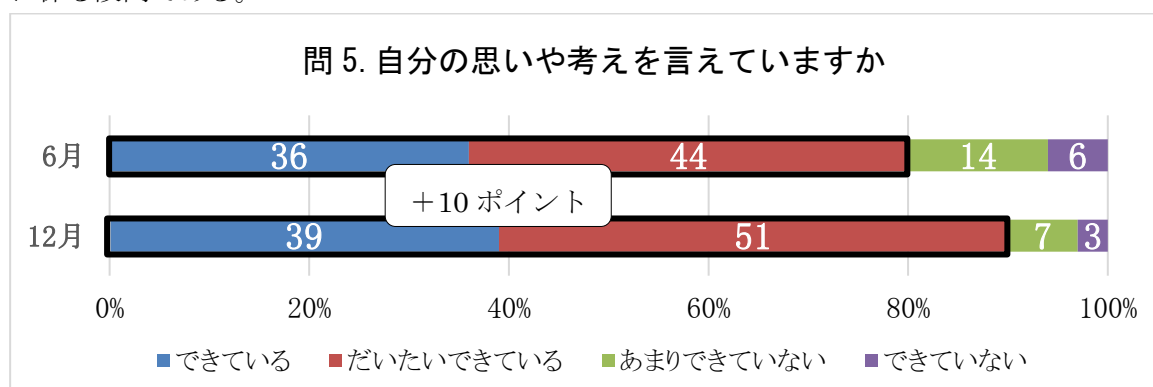
- 自分の好きなものを文で伝えられるようになった。11/21 (木) は、「What do you want to eat for dinner?」の質問に「I like omu rice.」と初めて文で伝えられた。  
(別紙 1 p.8 11/21 (木)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 「That's nice.」「Me, too.」「Really?」の中から自分の気持ちを表す「一言感想」が言えるようになった。12/3 (火) は、「I like short cake.」というペアの答えに対して「Nice.」という「一言感想」が言えた。  
(別紙 1 p.8 12/3 (火)「実際の『やり取り』の様子より」)
- 自分が伝えた英語を「アイ ライク カレー アンド ライスといえた」「I like~や、Nice.といえた」等、振り返りカードにカタカナや英語で具体的に表記するようになった。(別紙 1 p.8 11/12 (火)と 11/21 (木)と 11/22 (金)と 12/3 (火)「振り返りカードより」)
- 「対話を続けるための基本的な表現」の「さらに質問」がまだできず、「2 往復のやり取り」は難しい。(別紙 1 p.8 11/12 (火)と 11/21 (木)と 11/22 (金)と 12/3 (火)の「振り返りカードより」と「実際の『やり取り』の様子より」)
- 第 7 時の「明野紹介」では、ALT からの質問「Where do you want to go?」に対して、未習であった「Where」や「want to go」を使っていたため意味が分からず、友達が答えた英語をそのまま繰り返していた。(未習表現で質問されたため、見取れなかった。)
- 休み時間に再度 ALT と話したときは、「What ice cream do you like?」などの質問に「Choco ice.」と自分の好きなものを答えることができ、嬉しそうな様子も見られた。

## 《Unit3・Unit4 を通しての T 児への考察》

覚えている既習表現が大変少ないため、最初は全く英語が話せなかったが、Small Talk の話題に興味をもち、「友達の好きなものが知りたい」という思いで Small Talk に取り組んでいた。「like」を計画的に配置した Small Talk を 4 回行ったため、質問や答え方、対話の続け方に少しずつ慣れ、既習表現の「like」が身に付き、自分の好きなものを文で伝えられるようになったと考えられる。また、「英語でやり取りできた」という思いから、その伝えた英語を振り返りカードに書きたいという気持ちも高まっていったと思われる。しかし、まだ身に付けた既習表現が少ないため、「対話続けるための基本的な表現」の「さらに質問」が言えず、「2 往復のやり取り」は難しい段階だと思われる。

### ②6 年生全体の事前事後アンケート

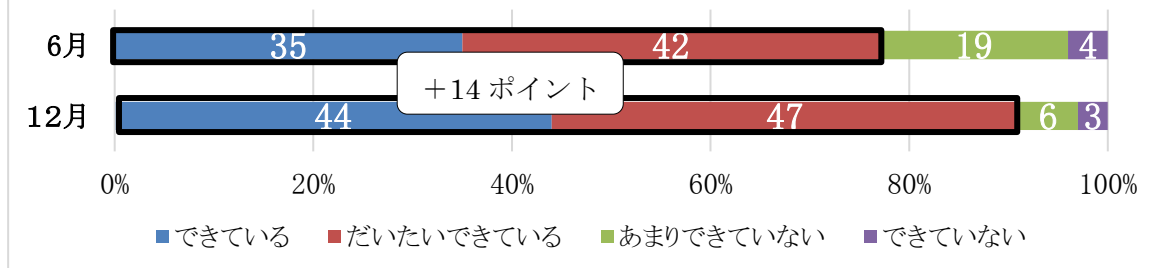
所属校において、第 6 学年の児童を対象とした外国語活動についての事前事後アンケート（回答数 6 月 72 名、12 月 70 名）を実施した。問 5 と問 6 は、「英語でやり取りできる力」に係る設問である。



問 5 の「自分の思いや考えを言えていますか。」については、「できている・だいたいできている」と回答した子どもは 90%で、6 月と比べると 10 ポイントの上昇が見られた。

Small Talk を重ね、自分のことを伝える活動や既習表現を使って表現する活動を増やしたため、自分の好きなものが伝えられるようになったと考えられる。

### 問 6. 今まで習った英語の言葉や文などを思い出していますか



問 6 の「今までに習った英語の言葉や文などを思い出していますか。」については、「できている・だいたいできている」と回答した子どもは 91%で、6 月よりも 14 ポイントの上昇が見られた。

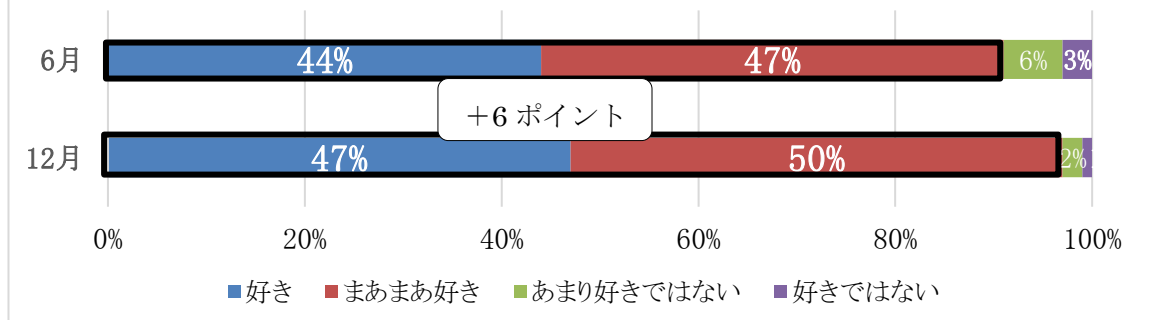
Small Talk を重ねる毎に、「繰り返し」「一言感想」「さらに質問」も意識付け、自分で考えて言葉を返すようにしていたため、「一言感想」や「さらに質問」が言えるようになったと考えられる。

問 7 の「話すときに気を付けていることがあれば書いてください。」では、「大きな声で言う」「しっかりと発音する」などの回答もあったことから、英語をはっきり発音できると自信をもっていることが分かる。

また、Small Talk 等の自分のことを伝える活動や既習表現を使って表現する活動を増やしたことにより、問 6 今までに習った英語を思い出そうとし始めたと考えられる。その結果、少しずつ自分の思いを伝えられるようになり、問 5 も上昇したと考えられる。

また、外国語活動の授業全体で見たとき、外国語活動が好きになった子どもも増えていた。

### 問1.外国語活動の授業は好きですか



問 1 の「外国語活動の授業は好きですか。」については、「好き」「まあまあ好き」と回答した子どもは 97%で、6 月と比べると 6 ポイントの上昇が見られた。この 6 ポイント上昇の理由について、問 2 と問 3 の回答と合わせて考えることにする。

問 2 の「どんなことをしているときが楽しいですか。」に対して、6 月は「ゲームが楽しい」という回答が 8 割ほどあったが、12 月は「ゲームが楽しい」という回答が 4 割ほどに減り、「Small Talk」「友達と英語で話すとき」「英語を聞くとき」「班で話し合うとき」等の英語を話す・聞く・読む・書く・考える活動が楽しいという回答が 6 割ほどに増えていた。その理

由を問う問3で、子どもから挙げられたのが、「友達の好きなものが知れるから」「自分のことも言えるから」「話せたとき嬉しかったから」等であり、英語を使ってお互いの思いを伝え合うことに楽しさを感じている回答が多かった。英語で伝え合うことに楽しさを感じる子どもたちが増えた1つ目の要因は、教材が変わったことによるものと考えられる。6月まではHi, friends!2を使った学習を行っており、キーワードゲームやミッシングゲーム等をたくさん行ってきた。7月からWe Can!2の教材に入ると、ゲームを行う活動が減り、Small Talk等の英語を話す・聞く・読む・書く・考える活動が増えた。思考する活動が増えたことで、学習内容は難しくなっているが、勝ち負けのあるゲームよりもSmall Talkの方が協力し合え、達成したときには英語で友達の好きなものを知ることができたという喜びも感じやすくなったと考えられる。2つ目の要因は、子どもたちの実態に合わせてスモールステップで少しずつ学習内容の難易度を上げていったことが考えられる。We Can!2の内容は難しいため、新しい活動の導入では、興味もてるような話題にしたり、単元のゴールを見据えてゴールが達成できるように既習表現の復習を行ったり、個人やペアで行う活動をグループで行うように変更したりするなど、仮説に基づくアプローチが有効に働いたと考えられる。実際に、6月よりも12月の方が英文を考えたり、書いたり、話したりする活動に対する前向きな姿勢が多く見られるようになっていた。英語でやり取りする力につながるSmall Talkを通して、外国語活動の授業そのものへの意欲喚起につながったと考えられる。

ここで、外国語活動が好きな理由に関する項目（問2と問3）については、A層・B層・C層それぞれの層に分けた集計も行い、3層の特徴を見ることにした。問2「どんなことをしているときが楽しいですか。」では、12月に「ゲームが楽しい」と回答した割合は、C層が一番低く25%まで下がっていた。そこで、6年生で

一番多かったインタビューやSmall Talk等の「英語でやり取りが楽しい」の回答を見ると下記の通りであった。A層は、2つを合わせるとほぼ100%となる。（複数回答あり）B層は他に「グループ活動・発表・書く活動が楽しい」という回答が21%であった。C層は他に「グループ活動・発表・書く活動・聞く活動が楽しい」という回答が25%であり、「動画を見る・無回答」が19%であった。C層の中では「英語でやり取りが楽しい」という理由が31%で一番多かった。C層の子どもは勝ち負けのあるゲームでは負けることが多くなるため、Small Talkでは友達のことが理解できる楽しさをより感じられたのだと思われる。このことから、Small TalkはC層の子どもたちにも「やり取り」の楽しさを感じられる言語活動であると分かった。

「ゲームが楽しい」と回答した子ども

	6月	12月
A層	69%	44%
B層	66%	42%
C層	61%	25%

「英語でやり取りが楽しい」と回答した子ども

	6月	12月
A層	19%	63%
B層	21%	37%
C層	22%	31%

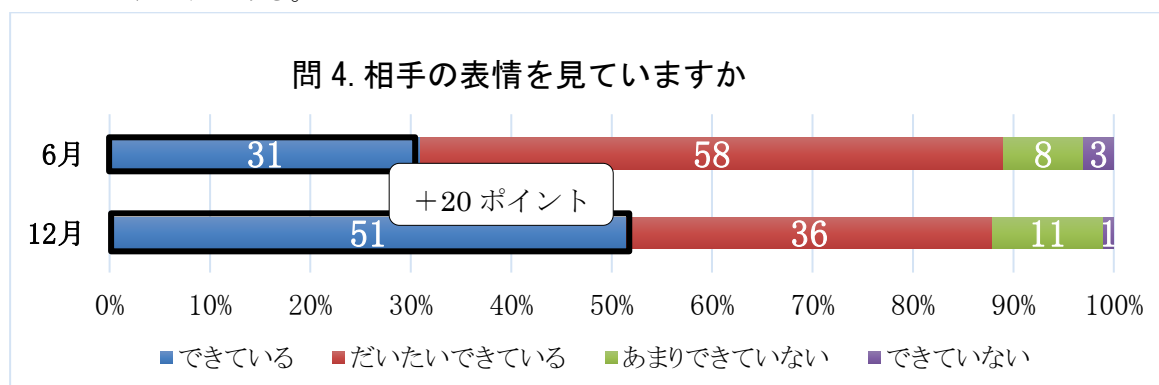
B層とC層は、割合は少し違うものの傾向が似ており、グループ活動や発表・書く活動も



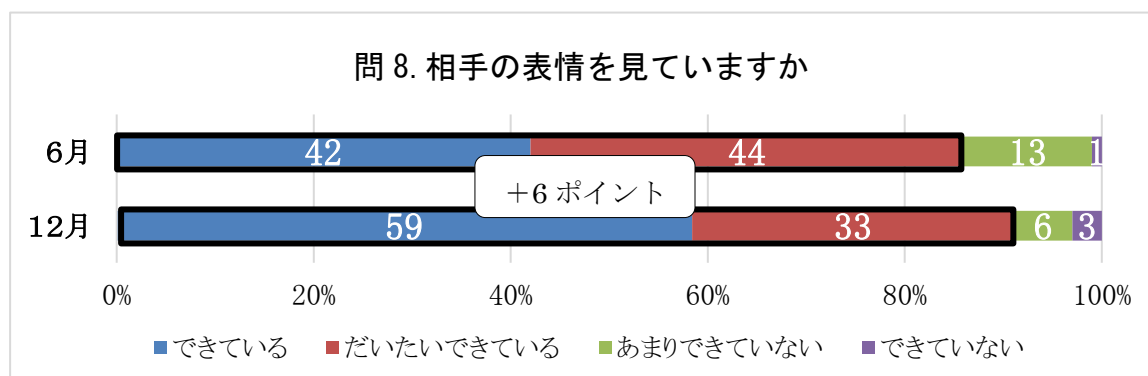
楽しいと思うことが分かった。問3では、「意見を言う練習になるから」「書くことで英語に慣れるから」等の回答が複数あり、楽しいと思う活動には、グループで活動できる安心感や「発表できた・英語が書けるようになった」等の達成感も関係していると思われる。

また、A層の「ゲームが楽しい」理由には、「ゲームで単語が覚えられるから」という理由もあり、割合が高くなっている。そして、「英語でやり取りが楽しい」という回答は、63%まで上がっている。これは、B層やC層の子どもたちにも「やり取り」の力が付き、全体的に「やり取り」が成立することによる満足感もあるのではないかとと思われる。

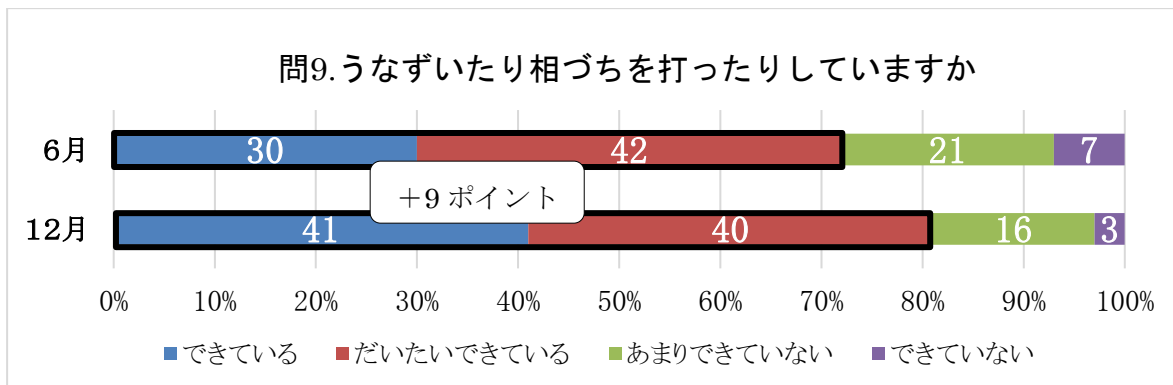
また、問4、問8、問9、問10は、互いに気持ちのよい「英語でのやり取り」ができるためのポイントである。



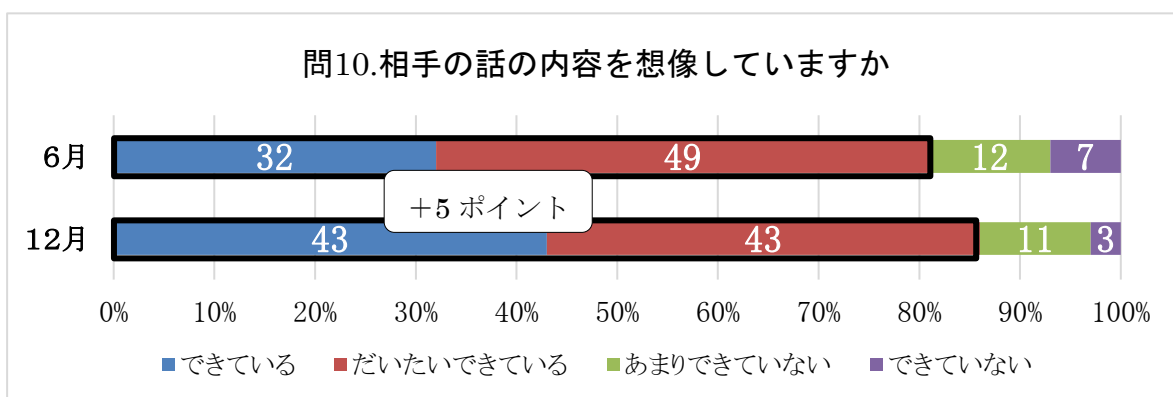
問4の「話すとき、相手の表情を見ていますか。」については「できている・だいたいできている」と回答した子どもは87%で、6月と比べると2ポイント減少しているが、「できている」のみを見ると20ポイントの上昇が見られた。



問8の「聞くとき、相手の表情を見ていますか。」については、「できている・だいたいできている」と回答した子どもは92%で、6月と比べると6ポイントの上昇が見られた。



問9の「聞くとき、うなずいたり、相づちを打ったりしていますか。」については、「できている・だいたいできている」と回答した子どもは81%で、6月と比べると9ポイントの上昇が見られた。



問10の「聞くとき、相手の話の内容を想像していますか。」については、「できている・だいたいできている」と回答した子どもは86%で、6月よりも5ポイントの上昇が見られた。

問11の「聞くときに気を付けていることがあれば書いてください。」では、「相手が伝えられないときは、表情や様子で何を伝えたいのかを考える」という回答が複数あったことから、問8「相手の表情を見ている」や問10「相手の話の内容を想像している」のポイントが上昇した理由であると考えられる。これは、相手の話を聞きたい思いが高まったことと、Small Talk等で自分の考えを伝えられなかった経験から、相手の表情や様子から何を言いたいのか推測しようという気持ちになったからだと考えられる。

そして、問11では「さらに質問をしている」「一言感想を言っている」「耳をすましてよく聞く」「確かめている」等の回答があった。これは、Small Talkを通して、「繰り返し」「一言感想」「さらに質問」という対話を続けるための基本的な表現が身に付き、問9「うなずいたり、相づちを打ったりしている」のポイント上昇につながったと考えられる。

Small Talkを通して、対話においての大切な要素も向上していたことが新たに分かった。

### ③ 6年生全体の話題アンケート

これまでに行った Small Talk の話題についてのアンケートを行った。どの Small Talk が話しやすかったかを問い、複数回答可とした。

#### Unit3 「人物紹介」

- ① What do you want in the miso soup? 「好きなみそ汁の具は何？」
- ② What Japanese food do you like? 「好きな日本食は何？」
- ③ What character do you like? 「好きなキャラクターは何？」

#### Unit4「自分たちの町・地域」

- ④ I ate (rice and miso soup). 「朝食に何を食べたか」
- ⑤ What do you want to eat for dinner? 「夕食に何を食べたいか」
- ⑥ What curry do you like? 「好きなカレーは何？」
- ⑦ What cake do you like? 「好きなケーキは何？」

話しやすかった話題は【表5】の通りである。

今年度の6年生の傾向として、好きな食べ物やキャラクターが話題であると話しやすいようであった。子どもによって話しやすい理由は様々であったが、主なものは「知っている英語がたくさんあったから」「好きなものがすぐに出てきたから」「いろいろな種類があるから選びやすかった」「好きなものがたくさんあるからたくさん伝えられた」「アニメや漫画を見ているから、話がはずんだ」「朝食は、もう終わったことだから、迷わず言いやすかった」等であった。

これらをまとめると、子どもたちに身近な話題で、知っている英語が多く、好きなものがすぐに思いつく話題が話しやすいと思われる。

また、話しやすい理由の中に、「短い文だから覚えやすかった」「難しい英語がなかったから」「like が分かりやすかった」等の既習表現についての回答も多かった。これまでに何度も学習してきた『like』を使った文であれば、答えられる」と自信をもった子どもが多いように感じた。そして、「want」を使った文にも少しずつ慣れてきたことが分かった。繰り返し学習してきた既習表現「like」「want」が定着したため、話しやすくなったと思われる。

【表5】話しやすかった話題

1	好きなケーキ	63%
2	好きなキャラクター	61%
3	好きなカレー	51%
4	好きなみそ汁の具	41%
5	好きな日本食	41%
6	夕食に何を食べたいか	34%
7	朝食に何を食べたか	33%

## 8.研究の成果と課題

### (1)成果

#### ①計画的な既習表現の配置について

単元のゴールで必要とされる既習表現を計画的に配置した Small Talk を行ったことで、繰り返し学習して慣れ親しむことができ、英語が得意な子どもは自信をもって話すことができ、苦手な子どもも質問や答え方、対話の続け方を少しずつ理解し、自分の好きなものを文で伝えられるようになるなど、それぞれの段階に応じて、「英語でやり取りできる力」を育成するために有効であることが分かった。

また、「対話を続けるための基本的な表現」の「繰り返し」「一言感想」「さらに質問」にも計画的に取り組むことで、「繰り返しができた」「一言感想ができた」など、1つずつ達成感を味わうことができ、話すことへの意欲につながったと思われる。

#### ②意図的な話題設定について

子どもたちが意図的に取り組める話題を意図的に設定した Small Talk を行ったことで、子どもたちの「自分のことを話したい」「友達の話を知りたい」という気持ちの高まりや、主体的に学ぼうとする姿が見られるなど、「英語でやり取りできる力」を育成するために有効であることが分かった。

その他、相手の表情を見ることや相槌などの反応を行うことが増えたことから、対話においての大切な要素も向上していたこと、「伝えたことを英語で書きたい」と書きたい気持ちも高まること、そして、外国語活動の授業そのものへの意欲喚起にもつながったことが分かった。

#### ③「英語でやり取りできる力」について

抽出児3名とも、Unit3とUnit4の2単元の Small Talk を通して、「like」などの既習表現が身に付き、また、「一言感想」など対話を続けるための表現もそれぞれの段階に応じて身に付けたことにより、「英語でやり取りできる力」が育ったと考えられる。今後も継続していけば「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」がさらに身に付いていくと思われる。

そして、抽出児の「英語でやり取りできる力」が育っただけでなく、6年生全体を見ても、意図的に取り組める Small Talk を重ねたことで、「一言感想」や「さらに質問」を積極的に行い、対話を続ける姿が増えたことから、「英語でやり取りできる力」が育ってきていると考えられる。

### (2)課題

#### ①話題と組み合わせにくい既習表現の配置について

子どもたち全員に自分の考えをもたせてから「英語でやり取り」をさせたいと考えていたため、話題が食べ物に集中してしまい、「like」「want」「eat」「ate」以外の既習表現を計画することができなかった。例えば、「play」を例に挙げると Small Talk が計画できなかった理由は2つある。1つ目は予備授業のインタビューゲームで「できること」を紹介する際、スポーツについての Teacher's Talk を行っ

たが、スポーツが苦手な楽器演奏も苦手な子どもが数人いることが分かったからである。2 つ目は、ゲームについても相手が知らない場合は、英語で説明するのも理解するのも難しく、Small Talk が成立しないであろうと思われたからである。さらに、比較的慣れている既習表現「like」から確実に定着させる必要もあった。そのおかげで、「like」は様々な話題と合わせることができ、繰り返し学習し既習表現の定着にもつながったが、子どもの興味があり、知っている英語が多い話題と組み合わせにくい既習表現(動詞)もあり、課題が残った。

例えば、Small Talk で「play」を計画したいとき、「音楽で様々な楽器に触れさせる」「児童集会後に体験したゲームについて問う」等、他教科や行事と関連させることで、効果的な Small Talk は広がっていくと思われる。今後も、既習表現と話題のより効果的な組合せについてさらに探っていく必要がある。

## ②Small Talk を生かす工夫

私が日本語を多く使っている頃は、授業で英語を話すと子どもたちは日本語に訳してほしそうな様子であり、つい日本語に訳してしまっていた。しかし、Small Talk を行うに当たり、英語だけで理解させるためにはどのような英語で伝えればよいかを考えるようになり、絵を描きながら英語を話したり、写真を見せながら英語を話したりすると、日本語に訳さなくても話の内容が大体伝わっていくことが分かった。さらに、私ができる限り英語で話した日は、ペア活動やグループ活動において、英語でやり取りしようと挑戦する姿が増えることも分かった。子どもたちが英語を話す場を作る上でも、指導者が英語を話すことは重要なのだと実感した。

そこで、Small Talk の冒頭に行う Teacher's Talk のやり方を他の言語活動にも広げて、英語を繰り返し聞かせたり、意味を推測させたりすること、また、「Small Talk の途中で言えなかった言葉を確認して別のペアと再度 Small Talk を行わせる」という流れを、他の言語活動でも行わせることが「自分が伝えたいことを英語でやり取りできる力」を育むために重要だと感じている。Small Talk のやり方を他の言語活動に生かすこと、「やり取り」できる言語環境を整えること、指導者が普段から意図的に英語を話すことが大切であると考えている。

また、本研究では、移行期間のため、第3学年からの積み重ねがあまりない中での実施となった。第3学年から英語を聞いて話す活動を積み重ねて英語に慣れ親しませること、第5学年の Teacher's Talk 中心の Small Talk を充実させることも必要不可欠であると感じた。そして、各学年の子どもたちの実態に合わせた年間指導計画や指導案作りを行うことが重要であると考えている。

## 9.まとめ

小学校学習指導要領が改訂され、来年度から中学年で外国語活動、高学年で外国語科が全面実施となる中で、英語によるコミュニケーション能力の向上が求められていることから、子どもたちが自分の思いや話したいことを英語で表現できる（「やり取り」できる）力を育成する必要があると考えた。また、小学校（大分市立）の先生方からの「Small Talk 等の新たな指導方法に課題がある」という回答から、今回の改訂で新たに示された Small Talk をより効果的に活用できればこのような課題を解決できるのではないかと考えた。

本校の第6学年外国語活動において子どもたちは楽しく活動していたが、既習表現の定着が不

十分であり、英語を話すことに積極的になれない子どもが多いという実態も分かり、「既習表現を生かした意図的・計画的な Small Talk」の在り方を探ってきた。実践と検証により、「計画的な既習表現の配置」と「意図的な話題設定」を組み合わせた Small Talk を積み重ねていけば、子どもたちは英語を使ってお互いの思いをやり取りしようとする意欲をもつことができ、実際にやり取りできる力が身に付いていくことが分かった。

本研究を通して、子どもたちが既習表現を使ったり、対話を続けるための基本的な表現を用いたりして、自分が伝えたいことを英語でやり取りしようとしている姿に成長を感じるとともに、本研究のやりがいを感じた。今後もこの研究を授業に生かし、学校全体で取り組んでいけば、子どもたちの自分の伝えたいことを英語でやり取りできる力をより一層伸ばしていくことができ、それが子どもたちのコミュニケーション能力の向上につながると感じた。大分市教育センター長期派遣研修という貴重な 1 年間をいただき、指導主事をはじめ多くの方々のご指導やご助言をいただいた。また、大分市立明野西小学校の協力の下、検証授業を行うことができた。心からお礼申し上げたい。今後も、本研究を通して学んだことを生かし、大分市の外国語教育の充実へとつながるよう努力を重ねていきたい。

## 10.研究成果の還元方法

- ・大分市教育センターにおける研究報告
- ・大分市教育センター T-LABO への掲載
- ・所属校における実践及び研究

## 11.引用文献・参考文献

- ・次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめについて 文部科学省 (2016)
- ・今後の英語教育の改善・充実方策について報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～ 英語教育の在り方に関する有識者会議 (2014)
- ・小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 文部科学省 (2017)
- ・小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省 (2017)
- ・大分市立小学校・中学校、義務教育学校 教育課程移行措置要領平成 30・31・32 年度 大分市教育委員会 (2017)
- ・瀧沢広人『Small Talk で英語表現が身につく！小学生のためのすらすら英会話』明治図書 (2018)
- ・大分市小学校英語教育推進ハンドブック 大分市教育委員会 (2019)
- ・小学校英語活動実施状況調査 文部科学省 (2007)
- ・小学校学習指導要領 (平成 20 年告示) 文部科学省 (2008)
- ・岡田俊恵 学習指導要領の変遷と小学校の英語教育 (2016)
- ・大分市学校教育指導方針 大分市教育委員会 (2019)
- ・直山木綿子 「新小学校学習指導要領における外国語教育の在り方—変わることで変わる—」『初等教育資料』平成 31 年 1 月号 (2019)
- ・山田誠志 『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業—使いながら身に付ける英語教育の実現—』 (2018)

- ・ 中嶋洋一/直山木綿子/久保野雅史 『「プロ教師」に学ぶ真のアクティブ・ラーニング  
“脳動”的な英語学習のすすめ』 (2017)
- ・ 瀧沢広人 『英語教師のための Teacher's Talk & Small Talk 入門—40 のトピックを収録！  
つくり方から使い方まで丸ごとわかる！』 (2019)